

令和3年度 自己評価計画（中間評価）

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題
1 学力向上 教材や指導法の工夫等により、家庭学習時間を確保するとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	① 授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Classi等の機能を効果的に活用し、学力を向上させる。 ② ③ ④	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (83.6%)	現在、GIGAスクール構想の実現に向け、Chromebookを活用した授業実践を行っている。しかしながら、本校では一人一台端末が整備されていない現状である。 今後は、効果的な利用を推進するために、端末を活用した実践内容についての共有、他校の実践例の共有などを図る。
		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (87.6%)	教員が創意工夫を施して授業を行っているものの、現状では、授業のねらいや振り返り、学び合いの場面がまだまだ少ない。 今後もねらいや見通しをしっかりと提示した上で、分かりやすい授業を展開するため、教科会や互見授業を通して教員の指導力向上を図り、生徒の学力向上につなげる。
		【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	「家庭学習の1日平均1時間以上」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	D評価 (31.6%)	定期考査の前などで家庭学習時間が多くなる傾向があり、普段の授業でもやや復習に力点を置いた課題であったり、予習を多く求めない傾向がある。 今後は、予習復習の意義を再確認させ、教科間で課題内容の調整等を行い、自宅や学校の端末等を活用した課題を設定する。
		【努力指標】 生徒個々の学習状況や定着を図るために適切な質・量の課題を課すことができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、定着を図る課題を課している」と回答する教員が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	B評価 (75.0%)	生徒の状況に応じた学習習慣の向上につなげるために課題設定や小テストを実施しているものの、定着には至っていない。 今後も生徒の性格や進路の特性を把握した上で、取り掛かりやすい課題からスモールステップで学習習慣の定着を図る。
学校関係者評価委員会の評価					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法					
2 基本的な生活習慣の確立 生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。	① 学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。 ② ③	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対する取組や指導をしっかりと行っている」と回答する生徒が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (85.3%)	全校集会やSC講演会、防犯教室、非行防止教室等を通して人権意識の醸成と、自己肯定感を高める授業づくりの校内研修を行い、いじめの未然防止と早期発見に努めている。 今後もコロナ対応やSNS等の利用を含め外部機関との連携、登校指導や授業での指導を再確認する。
		【成果指標】 スマートフォン等の学習外使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	「スマートフォン等の使用時間の1日平均」の回答が A 4時間未満 B 4時間～5時間未満 C 5時間～6時間未満 D 6時間以上	B評価 (4.3時間)	昨年度の5.5時間より減少している。PTA総会に諮り、家庭内でのスマホルールづくりを提唱した。 今後は、主な利用がゲーム・SNS・動画であることを踏まえ、スマホ依存の解消に生徒課と生徒会で協議し、メリットとデメリットを理解したルールづくりを作成するなど自律行動へつなげる。
		【努力指標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールを決め、ルールが守られている。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールが守られている」と回答する保護者が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	D評価 (37.3%)	生徒より保護者がスマホルールについて守られていないと回答があり、保護者の意識がやや低い。 今後は、家庭内でスマホについて話し合う機会となる講演会等を行うことを検討する。
学校関係者評価委員会の評価					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法					

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準		
3 外部との連携と進路意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	① 積極的な情報発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の進路意識を高める。	【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未決定者を抑制する。	「1年未決定者を10%以内、2年を5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C 評価	1年生37%、2年生26%が進学または就職の希望を未決定と回答している。原因として自分に自信がなく、仕事や上級学校についての知識不足がある。 今後、学年や進路指導課、外部機関を活用して、積極的に進路情報を提供したり、1年先輩の現況を伝えることなど進路意識を高めていく。
	②	【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者7名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	-	(年度末に提示する) 現在、4年制大学進学者希望は7名、就職希望は28名である。
	③	【努力指標】 ホームページの充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	A 評価 (93.3%)	ホームページ(随時更新)や内灘高だより(月刊)、学年だより(随時)の充実等により、学校の教育活動が概ね理解できるとの回答が高くなった。 今後もタイムリーに情報発信して、本校の魅力ある教育活動の理解を深める一助とする。
	④	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったと満足度を一層向上する。	「本校に進学して良かった」と回答する生徒・保護者が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	A 評価 (86.9%)	保護者の97%、生徒の78%が良かったと回答している。 今後も長期欠席者など支援を要する生徒には保健相談課と連携し、生徒全員が目的意識をもって高校生活を送ることを働きかけ、自己実現に向けて担任や教科担当者等として教育活動に邁進・協働していく。
学校関係者評価委員会の評価					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法					
4 教職員の多忙化改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	D 評価 (41.7%)	肯定的な回答が42%と低く、少人数の教職員であっても、大規模校と変わらない教育活動を進めるため負担感は大きいと思われる。 今後は、業務の見直しと精選を行いながら、実施要項や運営細案を作成して次年度につなげ、精神的にゆとりをもつて、授業や分掌業務に臨むことができる態勢をつくる必要がある。
	②	【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	B 評価 (69.2%)	事前に課や学年会で協議し、各教員の役割をしっかりと決めることで業務の効率化につながったと考えられる。 今後は主任として学校経営に参画している自覚を持ち、業務の効率化を図る提案を行うとともに、次年度を見据えた改善と見直しを行う。
学校関係者評価委員会の評価					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法					